

<p>健康・福祉</p>	<p>【代表的な研究テーマ】</p> <p>□ 0歳児の子育て支援のあり方に関する研究</p> <p>□ 育児文化の伝承を通じた子育て支援に関する研究</p>
<p>key word</p>	<p>課題解決に役立つシーズの説明</p>
<ul style="list-style-type: none"> ■ 家庭経営 ■ 家族関係 ■ 子育て支援 ■ 地域ネットワーク ■ エンパワメント ■ ジェンダー 	<p>問題関心の原点は「家庭・家族」を主軸として、ジェンダーに捉われることなく、男性も女性もワーク・ライフ・バランスを図り、自己実現できる社会のあり方を模索することを目指し、次のような研究を行っています。</p> <p>①第1子を持つことを主体的に意思決定する力を育む体験・教育のあり方について、カナダの地域子育て支援策や、共感の根プログラムをふまえた実践的研究。</p> <p>②出産後の夫婦関係の変化や予想外に大きい育児にもなう生活の諸側面における変化について調査を実施し、そうした変化への見通しを持たせ、負担感の低減を図る親支援のあり方を検討。</p> <p>③世代間で伝承されてきた育児文化に注目し、なぜ現代では社会的な子育て支援が必要になっているのかを着眼点として望ましい地域子育て支援のあり方を検討。</p> <p>④育児休業から復職する際の葛藤や不安の内実を調査し、職場復帰を支援するリターンプログラムを開発。</p>
	<p>滋賀大学にある人的・物的資源を有効活用し、大津キャンパスでも月に2回地域の親子の子育てひろばを開催。取得している2つのファシリテーター資格(カナダ生まれのノーバディーズ・パーフェクト(NP)とNP から派生した0歳児の母親対象のベビー・プログラム)を活かし、地域子育て支援プログラムを企画実施するために、大津市保健センターや子育て支援関係者のネットワーク会議に参加し、今後の地域連携のあり方を模索しています。こうした地域貢献活動を通して、教育学部の学生が自らのライフデザインする力を育む一助ともなるような親子と触れ合う場も設けています。</p>
<p>平松 紀代子 Kiyoko Hiramatsu</p>	
<p>教育学部 准教授</p>	
<p>【プロフィール】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●専門分野 ・家庭経営 ●略歴 ・1993年 University of Maryland at College Park, College of Human Ecology, Department of Family and Community Development 修士課程修了(M.S.取得) ・2002年 奈良女子大学 人間文化研究科博士課程生活環境学専攻修了(学術博士取得) ・1996.4~2002.03 龍谷大学短期大学部 社会福祉科 助手 ・2002.04~2003.03 奈良女子大学生活環境学部 人間環境学科生活文化学講座 助手 ・2003.04~2015.03 京都聖母学院短期大学 児童教育学科 講師、准教授 ・2015.04~ 滋賀大学教育学部 家政教育講座 講師 ・2016.04~ 滋賀大学教育学部 准教授 <p>【主な社会的活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本家政学会、日本家族社会学会、日本保育学会、家族関係学部会。 ・(福)西陣会評議員 ・大津市及び近江八幡市男女共同参画審議会会長 ・親支援活動を展開 <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・著書『出生児数決定のメカニズム』(2007)ナカニシヤ書店 <p>【連絡先】 kiyokoh@edu.shiga-u.ac.jp</p>	 <p>■講演等</p> <p>全国児童健全育成財団主催の児童厚生2級指導員資格取得のための全国研修の講師として「個別援助論」等を担当。滋賀県での同様の講座でも講師経験あり。また京都府の子育て支援員養成講座の講師として「子ども・子育て家庭の現状」、「子ども家庭福祉」の講座を担当。また、「伝えたいことを伝えるためのコミュニケーション」や「心をほぐしてつなげるアイスブレイク」等の対人コミュニケーションスキルに関する講演を幼稚園、保育園の保護者、保育者対象に伝える機会や自治体の依頼を受けて「ジェンダー」や「男女共同参画」をテーマとした講演の機会もいただいている。</p> <p>企業・自治体へのメッセージ</p> <p>乳幼児の保護者が期待される子育て支援へのニーズアセスメントに関して、ご協力いただける企業や自治体を探しています。子どもの発達に応じて変化する子育て支援へのニーズ、必要とされている育児情報や育児グッズの実情を把握する研究を通して期待されより有効性のある子育て支援のあり方を探っていきたいと考えています。</p>